

良質な録音図書製作のための音訳技術の向上

福岡県立図書館音訳の会

〒812-8651 福岡県福岡市東区箱崎 1-41-12（福岡県立図書館内）

助成事業の概要

●目的

録音図書は 1 冊の録音時間が長いもので 10 時間以上あり、音訳者には長時間聞き続けられる安定した読みが求められる。そのため毎月ベテラン会員による勉強会を実施しているが、それに加え年 1 回外部講師を招き音訳研修会も実施している。外部講師による研修会で音訳技術の向上だけでなく活動のモチベーションを上げ、より多く、良質な録音図書の製作につなげていく。

●日時

2025 年 6 月 7 日（土）、8 日（日） 福岡県立図書館 2 階研修室

講師 NHK 放送研修センター 榊 寿之氏

6 月 7 日 10:00～12:00 指導者研修
13:00～16:00 音訳研修 A

6 月 8 日 9:30～12:00 音訳研修 B
13:00～15:30 音訳研修 C

●内容

受講者（音訳者）を 4 グループに分け研修を実施。

1 日目午前中は音訳指導担当者対象で、新人・中堅の指導方法についての研修。

1 日目午後と 2 日目は音訳技術研修。テキストは、
A グループ：おもかげ橋 著者 葉室麟。

B・C グループ：七夜物語 著者 川上弘美。

A グループは音訳指導者とベテラン対象。

B・C グループは新人・中堅対象。

発声、間の取り方等基本的なものから、文末の処理など個々のレベルに沿った内容。

事業の成果

一日目午前中は音訳指導担当者 9 名が参加した。当会では 1 冊目の録音図書が完成するまで音訳指導担当の会員が新人会員をサポートする。その間の具体的な悩みを一人ずつ出し合い、対処方法の助言を頂いた。過去には、より良い録音図書ができるようにとの思いから指導過多になってしまい、新人会員は何からどう取り組めば良いのか迷う場面もあった。そのような時はまず大きな問題を 1 つ取り上げ重点的に指導する、その 1 つが改善するとその他の問題点も改善していくことが多いなど、具体的な助言を頂いた。研修後すぐにサポートに生かせる内容で、音訳指導担当者の不安軽減にもつながった。また、音訳指導者間でサポート内容を共有でき、より内容の充実した新人育成につながると考える。

音訳技術研修は 27 名が参加。

講師の的確な助言で見違えるように声の質が変わった会員も多かった。口の構え、息にのせた声を出す、腹式呼吸とは、など基本的なことは長く活動している会員にとっても常に意識すべき事であり、改めて確認する良い機会となった。A グループは時代小説を題材としたが、武士の役職や人名など特徴ある言葉の読みに留意しつつ、より内容がよく伝わる読みとなるよう、個々のレベルに合わせた指導を受けた。B・C グループは現代文を教材に自分の声（地声）で読む事、発声の方法、助詞の処理の仕方など具体的なアドバイスを受けた。

受講した会員より『「聞き手に話し、内容を届

ける」特訓を受けた。先生が繰り返し「例読」されるのを、見て聞いて声を出す練習を行い、会が目指す「よりよい録音図書作り」に大いに役立つ研修となった』との感想が寄せられた。

研修の翌週（6/18）には月に 1 回の勉強会を行ったが、さっそく今回の研修で明らかになった個々の課題に積極的に取り組む様子が見られた。

また、今回の研修では 2 日間通しての聴講はのべ 42 名に上り、人の読みを聞くことは大変勉強になり、聞く耳の向上も実感できた。音訳者以外の校正者、DAISY 校正者の聴講もあり、会全体の録音図書製作のレベルアップにつながると実感している。

成果の広報・公表

成果について公表する外部の場所を特に持たないが、当会の定例会などで、日本社会福祉弘済会の助成金決定の段階で福岡県立図書館担当職員や会員に周知しており、研修受講に対するモチベーションもアップした。会の広報誌「かけはし」（次号は 7/31 配信予定）にて研修受講者感想の記事を掲載する予定だが、この「かけはし」は図書館で閲覧できるようになっている。また、11 月に当会の 50 周年記念行事を予定しているが、この祝賀会（外部の関係各所に案内状発送予定）でも活動報告があるので、助成金を受けしっかり研修し、日々技術向上のため研鑽を積んでいることを報告したいと考えている。

音訳技術向上については日々の積み重ねであるため、この研修を機に個々が更に努力をし、利用者に「わかりやすい録音図書だった」と感想を持ってもらえることを最終的な成果としたい。

今後の展開

今回の音訳研修での学びを生かし、毎月の勉強

会で読みの技術向上を図っていく。読みの技術向上で録音作業が円滑に進み、録音図書製作のスピードアップにつながり、製作冊数の増加につながると考える。

今回、貴団体の助成金で、二日間にわたる外部講師による音訳研修を実施できたことは大変有意義だった。音訳技術の向上と会員のモチベーションアップにつながった。しかし、録音技術の向上は一朝一夕にはいかず、向上心を持って活動を継続していかなければならない。録音図書製作にあたり、聞きやすい良質な録音図書を今まで以上に多く製作していくことは大変難しい。それでも音訳者、校正者、DAISY 校正者、会員全員で、今回のように積極的に研修や勉強会を行い、1 冊でも多く良質な録音図書を製作していきたい。

当会は今年度創立 50 周年を迎える。これまでに活動に関わってこられたたくさんの先輩方のおかげで今の活動がある。AI 等自動音声の技術の進歩はあるが、情報誌などでなく「本」では人の声による録音図書は今後も必要とされるので、立ち止まることなく、これからも地道な活動を続けていきたい。